

## あきる野を愛した 歌の詠み人

### 三ヶ島 葎子 (1886年～1927年)

歌人。明治19年(1886年)8月7日、埼玉県入間郡三ヶ島村(現埼玉県所沢市)に生まれる。東京府西多摩郡小宮尋常高等小学校(現小宮ふるさと自然体験学校)に教員として勤めながら、「女子文壇」「青鞥」「スバル」等に短歌を発表。平塚らいてうや与謝野晶子との交流を通じて6千首の歌を残した。



画像提供：所沢市生涯学習推進センター

### 水原 秋櫻子 (1892年～1981年)

俳人、医師。本名は豊。明治25年(1892年)10月9日、東京市神田区猿楽町(現東京都千代田区神田猿楽)に生まれる。松根東洋城、高浜虚子らに師事した後、俳句雑誌「馬酔木(あしび)」を主宰し、独自の俳句活動に入る。医業の傍ら、印象派絵画のような美しく清新な俳句を数多く残した。



画像提供：水原康子

### 三遊亭 歌笑 (1917年～1950年)

落語家。本名は高水治男。大正6年(1917年)9月22日東京都西多摩郡五日市町小中野(現あきる野市小中野)に、高水製糸工場の次男として生まれる。好きな落語で身を立てようとして上京。三遊亭金馬、三遊亭円歌に師事する。戦後の昭和20年(1945年)には自作の落語「純情詩集」を発表し、リズムカルな口調、新しいセンスで一躍人気者となった。



画像提供：中日新聞社

### 中西 悟堂 (1895年～1984年)

野鳥研究家で歌人・詩人。明治28年(1895年)11月16日、石川県金沢市に生まれる。昭和9年に野鳥の会を創設し、自然保護に尽力した。また、歌人・詩人としても知られている。戦後からの約10年間に西多摩郡東秋留村二宮(現あきる野市二宮)で過ごし、村民の依頼で盆踊りのための唄を作ったり、東秋留小学校の校歌を作詞しており、現在も歌い継がれている。



画像提供：金沢ふるさと偉人館

### 金田 一春彦 (1913年～2004年)

国語学者。大正2年(1913年)4月3日、言語学者金田一京助の長男として東京市本郷森川町(現東京都文京区本郷)に生まれる。東京大学大学院修了。専攻は国語学。日本語研究の第一人者と言われた。主な著作に「日本人の方言」「日本人の言語表現」「平曲考」などがある。辞書の編さんも多い。



撮影：立木義浩  
資料提供：協力(敬称略)

## あきる野 立ち寄り風土めぐり

### 1 徳雲院

臨済宗建長寺派。季節になると梅や桜などの花木が境内を彩り、夏にはホタルの乱舞が見られます。また、五日市七福神の寿老人が祀られており、見どころの一つとなっています。

所在地 乙津511



### 2 秋川渓谷 瀬音の湯

自然豊かな秋川渓谷と緑豊かな山々に囲まれた温泉。アルカリ度が高く「美肌の湯」としてリピーターが多い。宿泊用のコテージや和食レストラン、無料の足湯などもあり一日楽しめます。

所在地 乙津565 問合せ 042-595-2614



### 3 あきる野ふるさと工房

東京都の指定無形文化財である軍道紙(ぐんどうがみ)の紙すき体験や販売を行っています。

所在地 乙津671 問合せ 042-596-6000

休館日 4月～9月 火曜・水曜、10月～3月 土曜・日曜  
※臨時休館あり



### 4 戸倉しろやまテラス

旧戸倉小学校を活用した滞在型観光施設。旧職員室を改修した木の温もりあふれるレストラン・食飲室(しょくいんしつ)の「思い出の給食プレート」がおすすめ。また、団体では多摩産材を使った二段ベッドの客室への宿泊や農業体験なども可能です。

所在地 戸倉325 問合せ 042-595-1234 開館時間 10時～17時(レストランは11時30分～14時) 休館日 火曜(祝日の場合は翌日) ※7月21日～8月31日は無休、年末年始(12月28日～1月4日)



### 5 佳月橋

城山を背景とし、新緑や紅葉が川沿いを彩ります。穏やかな川の流れと木々の美しさを楽しめる名所です。

所在地 小中野、小和田地区



### 6 五日市郷土館

五日市憲法草案の関係資料をはじめとする五日市地域の貴重な資料の展示や、敷地内にある市指定有形文化財「旧市倉家住宅」を見学することができます。

所在地 五日市920-1 問合せ 042-596-4069 休館日 火曜・水曜・祝日



■お問合せ あきる野市環境経済部  
観光まちづくり推進課  
電話：042-595-1135  
■発行年月 平成29年3月



# あきる野 歌碑めぐり



佳月橋上流

あきる野市 観光協会  
秋川渓谷